

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月13日
【四半期会計期間】	第83期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	新光電気工業株式会社
【英訳名】	SHINKO ELECTRIC INDUSTRIES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 豊木 則行
【本店の所在の場所】	長野県長野市小島田町80番地
【電話番号】	(026)283-1000(代表)
【事務連絡者氏名】	コーポレート法務部長 岡田 慎一
【最寄りの連絡場所】	長野県長野市小島田町80番地
【電話番号】	(026)283-1000(代表)
【事務連絡者氏名】	コーポレート法務部長 岡田 慎一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第82期 第3四半期 連結累計期間	第83期 第3四半期 連結累計期間	第82期
会計期間	自平成28年 4月1日 至平成28年 12月31日	自平成29年 4月1日 至平成29年 12月31日	自平成28年 4月1日 至平成29年 3月31日
売上高 (百万円)	105,052	109,019	139,890
経常利益 (百万円)	2,608	5,334	3,468
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,537	3,394	3,007
四半期包括利益または 包括利益 (百万円)	2,665	4,459	4,978
純資産額 (百万円)	131,123	134,517	133,435
総資産額 (百万円)	178,380	181,980	180,339
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	18.78	25.13	22.26
潜在株式調整後1株当 り四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.5	73.9	74.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	11,286	16,131	20,489
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	12,868	14,315	17,653
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,427	3,426	3,444
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	44,144	45,801	47,248

回次	第82期 第3四半期 連結会計期間	第83期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年 10月1日 至平成28年 12月31日	自平成29年 10月1日 至平成29年 12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	17.03	12.79

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税および地方消費税(以下「消費税等」という)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間の半導体業界は、旺盛なメモリー需要が継続し、自動車向けについても引き続き市場が拡大した一方で、パソコン向けは低調のまま推移しました。

このような環境下において、当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）におきましては、半導体製造装置市場の旺盛な需要を背景にセラミック静電チャックの受注が大幅に増加するとともに、リードフレームは自動車向けをはじめとした需要の拡大や生産体制強化などにより増収となりました。また、プラスチックBGA基板はスマートフォン等のメモリー向けや自動車向けの売上が大きく拡大し、ヒートスプレッダーはサーバー向けなどに需要が増加しました。一方、IC組立は、自動車向けの受注が増加したものの、ハイエンドスマートフォン向けは需要変動の影響等を大きく受けて売上が減少し、フリップチップタイプパッケージはパソコン市場縮小等により減収となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,090億19百万円（対前年同期比3.8%増）、経常利益は為替差益の計上などにより53億34百万円（同104.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は33億94百万円（同33.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ア．プラスチックパッケージ

プラスチックBGA基板は、スマートフォン等のメモリー向けや自動車向けの旺盛な需要を背景に大幅な増収となりました。IC組立は、自動車向けの受注が増加した一方で、ハイエンドスマートフォン向けは需要変動の影響を受け、減収となりました。また、フリップチップタイプパッケージはパソコン市場縮小等により売上が減少しました。これらの結果、当セグメントの売上高は574億5百万円（対前年同期比6.5%減）、経常損失は5億47百万円（前年同期は9億40百万円の経常損失）となりました。

#### イ．メタルパッケージ

半導体製造装置向けセラミック静電チャックの売上が大きく増加し、リードフレームは、自動車向けやスマートフォン向け等の需要拡大や生産体制強化などにより増収となりました。また、ヒートスプレッダーはサーバーのCPU向けなどに受注が増加しました。一方、ガラス端子は、光学機器向けの受注が増加したものの、光通信向けは低調のまま推移し、減収となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は446億91百万円（対前年同期比22.6%増）、経常利益は59億26百万円（同90.6%増）となりました。

（注） 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。（以下「第2 事業の状況」において同じ）

#### (2)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ14億46百万円減少し458億1百万円となりました。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ48億44百万円（42.9%）増加し161億31百万円となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ14億47百万円（11.2%）増加し143億15百万円となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ0百万円（0.0%）減少し34億26百万円となりました。

(3)事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は25億56百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5)財政状態および資金の流動性についての分析

当第3四半期連結累計期間の財政状態につきましては、以下のとおりであります。

総資産は1,819億80百万円で、前連結会計年度末に比べ16億40百万円の増加となりました。このうち流動資産は、設備投資等に伴い手許流動性預金が減少したものの、売掛金が増加したことなどにより1,024億59百万円（前連結会計年度末比11億86百万円増）となりました。固定資産は795億21百万円（前連結会計年度末比4億54百万円増）となりました。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ5億58百万円増の474億63百万円となりました。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ10億82百万円増の1,345億17百万円となりました。

以上により、自己資本比率は73.9%（前連結会計年度末は74.0%）となりました。

当社グループの資金状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローで得られた資金は161億31百万円（対前年同期比42.9%増）となりました。主な要因は、減価償却費および税金等調整前四半期純利益などにより資金が増加し、売上債権の増加などにより資金が減少したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは143億15百万円（対前年同期比11.2%増）の資金を使用しました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは34億26百万円（対前年同期比0.0%減）の資金を使用しました。主に、配当金の支払に使用したものであります。

これらの活動の結果に為替換算差額を加味した当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末の472億48百万円から14億46百万円減少し458億1百万円となりました。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	540,000,000
計	540,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月13日)	上場金融商品取引所名ま たは登録認可金融商品取 引業協会名	内容
普通株式	135,171,942	135,171,942	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	135,171,942	135,171,942		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (千株)	発行済株式総数 残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	135,171	-	24,223	-	6,055

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 81,700		
完全議決権株式（その他）	普通株式 135,081,200	1,350,812	
単元未満株式	普通株式 9,042		
発行済株式総数	135,171,942		
総株主の議決権		1,350,812	

（注）「完全議決権株式（その他）」には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が2個含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
新光電気工業株式会社	長野県長野市小島田町80番地	81,700	-	81,700	0.06
計		81,700	-	81,700	0.06

2【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の様動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	48,328	38,533
受取手形及び売掛金	35,981	38,899
有価証券	-	8,380
商品及び製品	2,465	2,544
仕掛品	6,744	7,041
原材料及び貯蔵品	2,605	2,507
繰延税金資産	1,418	960
その他	3,740	3,600
貸倒引当金	9	8
流動資産合計	101,273	102,459
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	29,797	30,442
機械装置及び運搬具(純額)	26,878	25,428
工具、器具及び備品(純額)	2,243	2,395
土地	6,567	6,572
建設仮勘定	7,147	8,518
有形固定資産合計	72,633	73,357
<b>無形固定資産</b>		
無形固定資産	1,197	1,242
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	46	47
退職給付に係る資産	431	470
繰延税金資産	4,424	4,085
その他	354	341
貸倒引当金	20	24
投資その他の資産合計	5,235	4,920
固定資産合計	79,066	79,521
資産合計	180,339	181,980



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,514	20,774
短期借入金	600	600
未払金	5,548	5,290
未払法人税等	241	950
未払費用	7,349	5,675
その他	900	1,703
流動負債合計	34,154	34,995
固定負債		
退職給付に係る負債	12,219	11,961
その他	529	506
固定負債合計	12,749	12,467
負債合計	46,904	47,463
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	24,223	24,223
資本剰余金	24,129	24,129
利益剰余金	95,562	95,579
自己株式	92	92
株主資本合計	143,822	143,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	1
為替換算調整勘定	1,776	1,517
退職給付に係る調整累計額	8,611	7,806
その他の包括利益累計額合計	10,387	9,322
純資産合計	133,435	134,517
負債純資産合計	180,339	181,980

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	105,052	109,019
売上原価	93,737	96,357
売上総利益	11,315	12,661
販売費及び一般管理費	9,176	9,377
営業利益	2,138	3,284
営業外収益		
受取利息	201	212
受取技術料	1	0
為替差益	-	1,535
その他	302	312
営業外収益合計	505	2,060
営業外費用		
支払利息	2	1
為替差損	10	-
その他	23	8
営業外費用合計	35	10
経常利益	2,608	5,334
特別損失		
固定資産除却損	276	609
特別損失合計	276	609
税金等調整前四半期純利益	2,331	4,725
法人税、住民税及び事業税	294	906
法人税等調整額	500	424
法人税等合計	205	1,331
四半期純利益	2,537	3,394
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,537	3,394

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,537	3,394
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
繰延ヘッジ損益	152	-
為替換算調整勘定	580	259
退職給付に係る調整額	861	805
その他の包括利益合計	128	1,064
四半期包括利益	2,665	4,459
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,665	4,459
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,331	4,725
減価償却費	11,962	12,790
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	296	297
受取利息及び受取配当金	204	215
支払利息	2	1
為替差損益(は益)	1,063	60
有形固定資産除却損	276	609
売上債権の増減額(は増加)	2,438	2,785
たな卸資産の増減額(は増加)	1,057	252
仕入債務の増減額(は減少)	355	1,142
未払費用の増減額(は減少)	2,168	1,690
その他	4,026	1,405
小計	13,840	15,373
利息及び配当金の受取額	202	214
利息の支払額	2	1
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	2,754	545
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,286	16,131
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	735	830
定期預金の払戻による収入	733	854
有形固定資産の取得による支出	12,479	13,757
無形固定資産の取得による支出	198	249
その他	188	332
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,868	14,315
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	3,377	3,377
その他	49	49
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,427	3,426
現金及び現金同等物に係る換算差額	798	163
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,211	1,446
現金及び現金同等物の期首残高	48,355	47,248
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,144	45,801

【注記事項】

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	45,201百万円	38,533百万円
有価証券勘定	- 百万円	8,380百万円
預け金勘定	116百万円	- 百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,173百万円	1,111百万円
現金及び現金同等物	44,144百万円	45,801百万円

( 株主資本等関係 )

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,688	12.5	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金
平成28年10月27日 取締役会	普通株式	1,688	12.5	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,688	12.5	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金
平成29年10月26日 取締役会	普通株式	1,688	12.5	平成29年9月30日	平成29年11月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	プラスチック パッケージ	メタル パッケージ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	61,396	36,460	97,856	7,195	105,052	-	105,052
セグメント間の内部 売上高または振替高	-	699	699	2,324	3,024	3,024	-
計	61,396	37,159	98,556	9,520	108,077	3,024	105,052
セグメント利益または 損失( )	940	3,109	2,168	962	3,131	523	2,608

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に連結子会社の事業によるものであります。

2. セグメント利益または損失の調整額 523百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	プラスチック パッケージ	メタル パッケージ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	57,405	44,691	102,096	6,923	109,019	-	109,019
セグメント間の内部 売上高または振替高	-	553	553	2,235	2,789	2,789	-
計	57,405	45,244	102,649	9,159	111,808	2,789	109,019
セグメント利益または 損失( )	547	5,926	5,378	322	5,701	366	5,334

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に連結子会社の事業によるものであります。

2. セグメント利益または損失の調整額 366百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	18.78円	25.13円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	2,537	3,394
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,537	3,394
普通株式の期中平均株式数(千株)	135,090	135,090

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年10月26日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....1,688百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....12.5円

(ハ) 支払請求の効力発生日および支払開始日.....平成29年11月30日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払を行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月13日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 真紀江 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小山 浩平 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新光電気工業株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。